

コンパス

平成26年
3月

31号

目次

特 集

- ▶災害に備えた防災訓練
- ▶常神半島への医療チーム派遣
- ▶命をつなぐ臓器移植

お知らせ

- ▶ボランティアコンサートのお知らせ

県立病院の役割

福井県立病院長 山本 信一郎

県立病院は県民の皆様のための病院です。日ごろから県立病院を御利用頂き有難うございます。当院は皆様の健康を守るため色々なことをさせていただいています。また、高度急性期病院を目指して多くの役割を担っています。ここで県立病院のことについて少し数字を挙げて、その一部を説明させて頂きます。

外来は一日あたり約1,300人が通院されています。当院は地域医療支援病院に指定されており、地域の医療機関と密接に連携しています。そのため、新しい患者さんの約58%の方が紹介状をお持ちになって来院されています。また、救急部門は一次から三次救急まで対応する救命救急センターで、365日24時間、脳・心臓・大血管疾患など全ての疾患に対応しています。救急患者さんは年間29,000余人で、救急車の受け入れ台数は3,800台です。もちろん福井県には救急車のたらい回しはございません。

入院についてみると、毎年13,000余人の方が新たに入院され、約9,500件の手術が行われています。入院されている期間(在院日数)は平均して12.3日です。

さらに、平成19年に都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、平成21年にはがん医療センターを開設しました。平成23年からは日本海側初となる陽子線がん治療センターが稼動を開始し、様々な患者さんに対応できるよう取り組みを進めています。平成25年4月からは、がん医療センターの外来部門を、新しい専用フロアに拡張移転しました。

今後も福井県民の皆様の健康を守るために尽力させて頂きたいと考えています。



福井県立病院理念・基本方針

理念

私たちとは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

基本方針

1. 心身ともに全人的な医療を提供します。
2. 質の高い医療、特殊・先駆的医療を提供します。
3. 安全管理を徹底し、患者様本位の医療を提供します。
4. 救命救急医療の充実を図ります。
5. 地域医療機関との連携に努めます。
6. 個人情報の適切な管理を行います。
7. 健全な経営に努めます。



「コンパス」には、

「円を描く道具」「方角を示す磁石」の2つの意味があります。

この広報誌が皆様と当院の輪(和)を描くものとなり、また皆様にとって有用な情報を提供することで、今後の皆様の健康の道しるべとなるよう願いを込めて名づけられました。

福井赤十字病院、公立丹南病院と連携して、 防災訓練を行いました

県立病院では災害に備えた訓練を毎年行っています。本年度は、福井市で震度6弱の強い地震が発生したという想定で10月12日（土）に行いました。職員および模擬患者役の看護専門学校の生徒をあわせて約160名が参加し、初動対応が迅速かつ適切に行えるよう訓練を行いました。今回は、講堂を緊急入院ゾーンとすることにより、多数の患者さんに対応可能なスペースの確保も確認しました。

また、二次救急病院との連携をはかるため、福井赤十字病院と公立丹南病院のDMAT隊に訓練に参加してもらい、応急救護の応援や患者搬送に加わってもらいました。

災害時は、入院患者さんに加え、医療資源（医療スタッフや医薬品等）が制約される中で、外から来られる大勢の患者さんに対して、一人でも多く最善の治療を行うことになります。このため、患者さんの緊急性に応じて、搬送や治療の優先順位を決めるトリアージを実施しました。救護訓練では、患者役に参加してもらい実践的な訓練を行い、普段使わない紙カルテの記載方法を確認しました。

今後も、防災に関する意識を高く持ち、いざという時にも素早く冷静に対応できるよう準備を重ねてまいります。



トリアージ



講堂(緊急入院ゾーン)



福井赤十字病院DMAT



公立丹南病院DMAT

ボランティアコンサートのお知らせ

当院では1階エントランスホールにおいて、様々なコンサートを開催しています。
4月は以下のとおり開催を予定しています。みなさまのお越しをお待ちしています。



日 時	内 容
平成26年4月25日(金)13:30～	ハープの演奏

常神半島への医療チーム派遣

平成25年9月16日に福井県を襲った台風18号は、特に嶺南地域で河川の決壊や土砂崩れ、家屋の倒壊や浸水など甚大な被害をもたらしました。その中で、若狭町の常神半島では、県道が土砂崩れで通行止めになり、常神・神子・小川134世帯約500の方が孤立状態になりました。孤立状態の3集落には医療機関はなく、道路が復旧するまでの約1ヶ月間、病院等の医療機関のある町中心部への移動手段は定期船による他ありません。しかし、その定期船も悪天候時には運航できません。船もヘリコプターも運航できない状況で急病人が発生したら・・・。

福井県では、若狭町からの依頼を受け、悪天候時には福井県立病院の医療チームを派遣し、救急患者の応急処置と天候が回復し患者が搬送できるようになるまでの間の対応をすることになりました。



これまで、福井県立病院は、阪神淡路大震災、福井豪雨、能登半島地震、新潟県中越沖地震、東日本大震災など、様々な災害現場に救護班やDMA Tを派遣してきましたが、今回の任務は、どのような傷病者が発生し、何日間持ちこたえなければならないかも分からず、県立病院の医療チームにとっても初の試みとなりました。どのような傷病者にも対応できるよう、天候の良いうちに医療資器材・薬品を常神半島に搬入し、悪天候発生に備えました。

そして、10月8日、台風24号の接近に伴い定期船の運航がストップするなか、県立病院の医療チームは、地元の漁師さんのご協力により、漁船で常神半島に入り、常神地区の診療所に待機し、救急患者の発生に備えました。



天候が回復し、定期船の運航が可能となった10日までの3日間、幸いにして2名の軽症患者さんの処置を行うのみで、重傷患者さんは発生しませんでした。

そして、約1ヶ月かかると見込まれた仮設道路の工事は、順調に進み12日には開通し、常神半島の孤立状態は解消されました。

「災害対応では、空振りを恐れずに」と言われています。今回の医療チーム派遣は結果的には「空振り」であったかもしれません、福井県立病院は、県の基幹災害医療センターとして、医療を必要とするあらゆる災害現場に必要な医療を提供していきます。

命をつなぐ「臓器提供」

県立病院における脳死下臓器提供の取り組み

臓器提供とは、重い病気や事故などにより臓器の機能が低下し移植でしか治療できない方と死後に臓器を提供してもいいという方を結ぶ医療です。

平成22年1月に法律が大きく改正され、本人の意思が不明の場合でも、ご家族の承諾があれば脳死での提供が可能になり、国内でこれまでに260事例の脳死下臓器提供が実現しています（平成26年2月末現在）。

このうち、3事例は当県立病院におけるものであり、平成24年10月、平成25年9月および10月にそれぞれ脳死下臓器提供を実現することができました。ご本人またはご家族の貴重なご意思をお受けして、滞りなく臓器提供を実現できたことは、当院職員一同深く喜びとするところであり、またあらためてその責任の重さを感じています。

今後もたゆまぬ努力を続け、命をつなぐ臓器提供に携わる病院として、その責任を果たしていきたいと考えています。



屋上のヘリポートから臓器を搬送する様子（平成26年10月）



院内臓器移植コーディネーター

こんにちは。私たちは院内臓器移植コーディネーターです。私たちの主な役割は、臓器提供に関するご相談があった場合に、ご家族に寄り添い、臓器提供の説明をしたり不安をお聞きするなど、臓器提供がスムーズに行われるよう活動することです。また日頃は院内の体制整備や、臓器移植の啓発活動にも取り組んでいます。お聞きになりたいことがあればいつでもご相談ください。

「臓器提供意思表示カード」をご存知ですか？

臓器提供の意思は、「臓器提供意思表示カード」で示すことができます。当院でもエントランスホールの「なんでも相談」窓口に設置しています。また最近は健康保険証や運転免許証の裏面、インターネットの登録などでも意思表示ができるようになっています。みなさんも一度ご家族と意思表示について考えてみませんか。



(1. 2. 3. いずれかの番号を○で囲んでください。)	
1. 私は、 <u>脳死後及び心臓が停止した死後のいずれでも</u> 、移植の為に臓器を提供します。	
2. 私は、 <u>心臓が停止した死後に限り</u> 、移植の為に臓器を提供します。	
3. 私は、臓器を提供しません。	
(1 又は 2 を選んだ方で、提供したくない臓器があれば、Xをつけてください。) [心臓・肺・肝臓・腎臓・脾臓・小腸・眼球]	
〔特記欄〕	
署名	年 月 日
本人署名(自筆)：	
家族署名(自筆)：	



新聞やテレビで、県の情報をキャッチ！

新聞 テレビ番組	「県からのお知らせ」（毎月1日、15日に掲載） 「おはようふくい730」（FBC／日曜） 「ほっとふくい」（ftb／1・3土曜） 「まちかど県政」（FBC、ftb／日曜） 「県政広報ふくい」（年6回発行）
広報誌	

※ラジオやインターネットでも提供中。

お問い合わせ

県広報課

0776-20-0220